

令和 6 年度 シラバスの作成について

目 次

授業科目のシラバス作成について

1. 授業科目名、教員名、開講年度学期、曜日時限、単位数 ..	1
2. 授業科目名(英)	1
3. 開講学科	1
4. 授業形態	1
5. 主な授業方式	1
6. TA の補助	1
7. 学年	1
8. 科目区分・授業形態	1
9. 単位区分	1
10. 授業概要	1
11. 達成目標	2
12. 成績評価方法	2
13. 教科書・参考書	3
14. 履修上の注意	3
15. 授業計画	3
16. 主なモデル・コアカリキュラム項目	3
17. 授業外（事前・事後）学修	3
18. 注意	3
19. アクティブラーニングの実施	4
20. オフィスアワー	4
『卒業研究』のシラバスについて	4

授業科目のシラバス作成について

1. 授業科目名、教員名、開講年度学期、曜日時限、単位数

システムにより自動入力

※オムニバス科目の場合、先頭の教員が科目責任者になります。変更する場合は教務課までご連絡ください。

※令和6年度新カリキュラムにより、科目名称が変更となった科目については、「〇〇（新カリ）（〇〇（旧カリ）」と科目名が併記されています。名称変更ではあるが、シラバスは別途作成する場合には、教務課までご連絡ください。

2. 授業科目名(英)

英語表記での科目名を記入してください。（英文成績証明書発行時に使用）

※令和6年度新カリキュラムにより、科目名称が変更となった科目については、「〇〇（新カリ）/〇〇（旧カリ）」と併記してください。

3. 開講学科 ※事務局にて一括入力

【学部】〇学部〇学科 【大学院】大学院 〇研究科〇専攻

※入学年度により受講制限がある場合はここに記入。（例：2020年度以前入学者用）

4. 授業形態 ※事務局にて一括入力

「講義・演習」「外国語」「実験・実習」「卒業研究」

5. 主な授業方式

授業の実施方式を記入してください。

例：対面授業、オンライン授業、ハイフレックス型授業、ブレンド型授業

※新型コロナウイルスの蔓延状況に関わらず、当初の予定としてご記入ください。

※オンライン授業：全ての授業・学生がオンラインで実施する。

ハイフレックス型授業：オンライン授業と対面授業を同時に行い、学生は自身の状況に応じて、受講方法を選択することができる。

ブレンド型授業：教える内容や、期待する学習効果に合わせて、オンライン授業と対面授業を組み合わせて実施する。

6. TAの補助

「有」・「無」を入力 ※令和6年度以降

7. 学年 ※事務局にて一括入力

【学部】〇年 【大学院】修士課程〇年 博士後期課程〇年

8. 科目区分 ※事務局にて一括入力

旧カリキュラム	新カリキュラム
一般科目(外国語)	一般科目 (外国語)
一般科目(人間科学)	一般科目 (健康科学)
基礎科目(基幹基礎)	一般科目 (人文科学)
基礎科目(専門基礎)	一般科目 (社会科学)
専門科目	一般科目 (自然科学)
卒業研究	基礎科目
	専門科目
	卒業研究

9. 単位区分 ※事務局にて一括入力

必修、選択

※入学年度により区分が異なる場合はここに記入。(例：選択(2020年度以降入学者) 必修(2019年度以前入学者))

10. 授業概要

科目の教育内容を記入してください。他の科目との関係や科目の特徴等も加えてください。実務家教員に関する授業については、末尾に【実務経験教員による授業】というタイトルをつけ、その後にどのような実務経験があり、授業に活かされるのか及び経験の活用方法を記載してください。

※実務家教員に関する記載例

【実務経験教員による授業】

本科目の担当教員である〇〇は平成〇〇年度より株式会社にて〇〇設計、開発に従事し、その業務で培った経験を同科目の授業の内容に合わせて業務関係やその連携の重要性について講義する。

11. 達成目標

科目の達成目標を具体的に箇条書してください。当該科目を修得することにより、学生がどの程度の知識・能力を身に付けるかについて具体的に分かりやすく記入してください。

達 成 目 標 (記入例)
・ 〇〇に関する基本的な専門用語の意味を理解できる。 ・ △△の法則について理解し、これを用いて簡単な△△の解析ができる。 ・ ××の設計における、〇〇と△△のトレードオフの関係を説明できる。 ・ 〇〇の原理を応用した装置に関して、原理図を示し動作の概要を説明できる。 ・ △△が果たしている社会的役割と、それに伴う問題点を説明できる。

令和6年度新カリキュラムに対応した科目については、末尾に【薬学教育モデル・コア・カリキュラムにおける学習事項(2024年度以降入学生用)】というタイトルをつけ、その後に新コアカリの“学習目標”並びにその記号・番号を記載し、その下に授業で取り組む学修事項を記載してください。

(記入例)

【薬学教育モデル・コア・カリキュラムにおける学習事項(2024年度以降入学生用)】

B-1-1 医療人に求められる倫理観とプロフェッショナリズム

(1)プロフェッショナリズムの概念

(4)生命の誕生、終末期、先端医療に伴う倫理的課題

B-1-2 患者中心の医療

(1)患者の基本的権利

12. 成績評価方法

(1) 評価方法

実施する成績の評価方法について合計が100点となるように配点を記入してください。

なお、試験以外の算出項目に関しては、その明確な算出基準を記入してください。(ルーブリック表、など)。

成績の評価方法の項目は次のとおりです。

評価方法	具 体 的 内 容
試験	学期末に行なわれる試験
レポート	学期中または学期末に課されるレポート
演習・小問	演習、小テスト、小レポート提出
参加姿勢	実験・実習授業における受講態度、実験ノートの書き方など

講義科目では「参加姿勢」を評価に入れないで下さい。ただし、「出席点」と言う表現は認められません。出席点に相当する項目は講義については「演習・小問」、実験・実習については「参加姿勢」です。

(2) 評価基準

成績の評価基準について、学生の達成度を水準も含めて判定できるように具体的かつ明確に記入してください。あるいは「成績評価は大学及び学部が定める成績評価基準によって行う。」として下さい。

評 価 基 準 (例1)	評 価 基 準 (例2)
達成目標1および2についてレポートを課し、その達成度80%以上、その他の達成目標については試験を行い、試験とレポートの成績の合計に応じて以下のように評価を与える。 S: 90~100点、A: 80~89点、B: 70~79点、C: 60~69点、D: 59点以下 不合格	達成目標事項についての演習・小問および定期試験を行い、その成績の合計に応じて以下のように評価を与える。 S: 90~100点、A: 80~89点、B: 70~79点、C: 60~69点、D: 59点以下 不合格

一方、形勢的評価を行う科目については、具体的な評価基準を記載するあるいは「別途ループリックを用いる。」として学生にその概要を公開してください。ループリックの公開については、該当学生のみにループリックを公開します。教務課にご相談ください。

(3) 再試験

末尾に再試験の実施の有無を、「再試験：有（無）」といった表記で記入してください。

学修簿には、「再試験は、必修科目の定期試験の結果が不合格であった場合、その対象者に実施される試験です。再試験は必ず実施される試験ではなく、実施の有無についてはシラバスに記載されます。」と記されています。

1.3. 教科書・参考書

(1)教科書の欄には学生が必ず購入する必要がある教科書のみを記入して下さい。

あれば望ましいという程度であれば、参考書の欄に記入して下さい。

(2)参考書を記入して下さい。

シラバスに記入した教科書・参考書については図書館に配架されます。

1.4. 履修上の注意

新コアカリでは“科目間の繋がり”が重要視されていることから、全科目において「科目間の繋がりカリキュラムツリーを参照すること」を記載してください。具体的な科目や領域が記載されると、よりわかりやすいです。その他当該科目に関連する科目、当該科目を履修するに当たり、前もって履修しておかなければならない科目や履修することが望ましい科目、あるいは当該科目の受講上の注意などがある場合は記入してください。

15. 授業計画

授業計画は各回に分けて詳細に記載してください。授業のタイトルだけでなく具体的にどのようなことを学ぶのかを簡潔に記載してください。

試験を実施する科目は、必ず最終回（15回授業であれば16回目）の項目欄に「定期試験」と記入し、定期試験受験に関する留意事項、出題範囲等を記入してください。なお、「中間試験」を実施する場合は、「中間試験」と記載すると授業とみなされないで、『到達度確認と解説』と記入してください。

※15回目に定期試験を実施する等、実際と授業計画が異なる場合は、講義内で学生に周知するようお願いします。

16. 主なモデル・コアカリキュラム項目

各回の対応するモデル・コアカリキュラムのSB0の記号・番号を記入してください。

（例：A-(1)-①-1 ※階層毎の記号・番号を-(半角ハイフン)でつないでください。）

※新コアカリ（令和4年度版）に対応する科目については、各回の授業で取り組む学習事項の記号・番号を記入してください。例：D-4-2-(1)

※新カリ科目と旧カリ科目で同一のシラバスを使用する場合は、旧A-(1)-①-1／新B-1-1-(1)と分かるように記載してください。

17. 授業外（事前・事後）学修

単位制度は授業時間外に必要な学修等を考慮して、45時間相当の学修量をもって1単位と定めており、学生の学習時間は学習成果の達成にも密接に関連しますので、授業外学修（予習・復習）について具体的な指示を記入してください。

18. 注意

授業を受講する上での注意事項があれば記入してください。

19. アクティブラーニングの実施

アクティブラーニングを実施する際には、以下の項目についてご記入ください。

「小テスト・レポートの実施」「グループワーク」「ディベート・ディスカッション」「プレゼンテーション」「課題解決型学習」「反転授業」	「○」を記入。必要に応じてコメントを記入してください。（例：「毎回小テストをおこないます」）
「その他」	上記以外の手法について記述してください。

20. オフィスアワー

当該科目について学生からの質問や相談に確実に応じることができる時間帯と場所を記入してください。

なお、時間帯は「随時」「授業のない時間は自由」等の曖昧な表現は記載不可、具体的に、「曜日」「時間」を記入してください。

『卒業研究』のシラバスについて

- 英語表記は、「Independent Study and Thesis 1, 2, 3」 ※事務局にて一括入力
- 「授業概要」「達成目標」「成績評価方法」は、学科で表記を統一します。※事務局にて一括入力